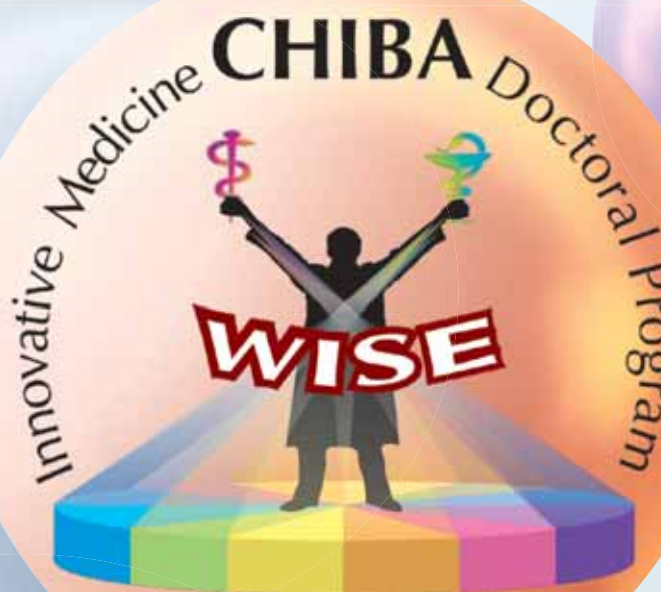


iMeC
WISE

文部科学省 卓越大学院プログラム
革新医療創生CHIBA卓越大学院

NEWS LETTER



NEWS LETTER
Number **1**
2021 Spring

新たな医学の
知の創出

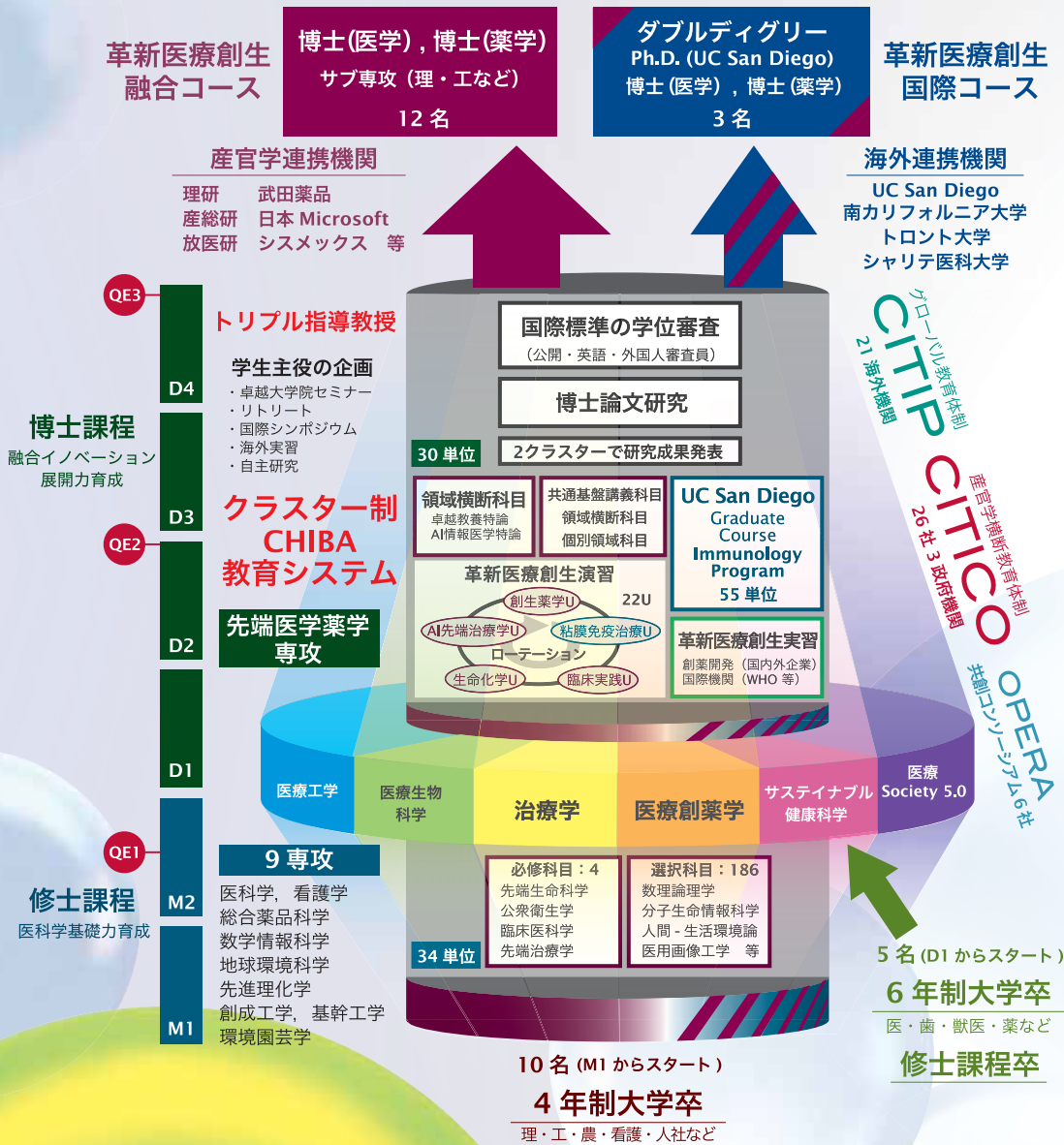
革新的治療の
開発・展開

サステイナブル
健康社会

世界を先導する革新医療創生イノベーター

このプログラムは、千葉大学における100年以上にわたる医学や薬学分野の人材育成の実績を基に、医学と薬学のみならず理学や工学などの幅広い知見や技術を生かし、革新医療創生を担う卓越した『知のプロフェッショナル』を養成することを目指しています。医学、薬学、理学、工学などの9専攻の修士課程と先端医学薬学専攻の4年博士課程を一貫した6年制の新しい大学院教育プログラムです。

革新的な医療を創生するイノベーターとして、新たな医学の知の創出や社会実装に貢献できる能力を習得すべく、既存の枠を越えて組織されたクラスター制CHIBA教育システムで学修するとともに、革新医療創生演習や実習などの特別な教育カリキュラムを受講し、高度な専門性と俯瞰力、独創力、チャレンジ精神などを培います。国外ダブルメジャー相当の博士を養成する革新医療創生融合コースと、千葉大学に加えカリフォルニア大学サンディエゴ校(UC San Diego)などの海外一流大学で博士号を取得する革新医療創生国際(ダブルディグリー)コースがあります。



学生・教員による意見交換会



新型コロナウイルスの感染予防策をとり、令和2年9月23日に亥鼻キャンパスの医学部本館にて、卓越大学院1期生と教員との意見交換会が実施されました。

プログラムの目的や、革新医療創生演習などの独自の科目、ダブルディグリー取得を目指した留学、将来のキャリアプランなど幅広い内容に関して活発な話し合いが行われました。

卓越教養特論

(博士課程 五味 昌樹)



研究者として成長していくための素養を磨くことを目的として、多様な研究分野の第一人者を講師に招き研究紹介やご自身の経験を伺う博士課程の授業です。理系文系の垣根を越えた領域における成功体験・失敗談を詳細に語って頂き、一人の研究者としてどのような形で社会に貢献できるか、また社会貢献可能な研究を推進できるような研究者となる上で重要な心構えについて深く考え直すヒントを多く得ることが出来たと思います。

革新医療創生演習



プログラム教員の研究室ならびに外部の研究機関を訪問し、それぞれが行っている研究について話を伺いました。実験手技を体験させて頂いた研究室もあり、自身の所属研究室では知り得ない研究環境に触れることができる大変貴重な機会となりました。本プログラムではメインの所属研究室とは異なる研究室でも研究成果を挙げることが要件になっており、本演習は自分がどの研究室を選択するか決める上でとても良い参考になりました。

実践英語



英語を母国語とするネイティブスピーカーの外部講師を招き、学術的なプレゼンテーションスキルの習得を目指す授業です。英語では、文章・スライド構成に限らず話す際のアクセントや発表中のジェスチャーなど多くの点が日本語と異なり、この授業だからこそ学ぶことができた重要なスキルだと思います。英語による最終発表では互いのプレゼンに対して英語による多数の質問・コメントがあり、実際に国際学会で発表したような緊張感を体験できてとてもよい経験となりました。

MEMBER'S PROFILES 学生紹介

修士課程7名、博士課程8名の計15名が、このプログラムに参加しています。

博士課程



石野 貴雅

■博士課程 1年 ■消化器内科学(医学)

免疫チェックポイント阻害薬や複合免疫療法の有効性を予測するようなバイオマーカーの探索を行っています。基礎研究を行う中においても“Bedside to bench to bedside”の視点を大切にして、実臨床に還元できるような研究を進めたいと考えています。



餌取 慶史

■博士課程 1年 ■アレルギー・臨床免疫学(医学)

アレルギー・膠原病疾患における組織中の種々の免疫担当細胞の分化、誘導メカニズムの解明に取り組んでいます。将来的には、異常な免疫応答や獲得免疫を選択的にリセットする分子メカニズムの作成に生かしたいと考えています。



五味 昌樹

■博士課程 1年 ■薬物学(薬学)

脂質ナノ粒子を用いた細胞内核酸送達技術を基盤として、免疫応答の制御・炎症性疾患の治療法の開発に取り組んでいます。医学部の方々と関わっていく中で、自分に足りない臨床的な視点を身に付け、新たな医療の創出に貢献できる人材を目指します。



今井 萌乃

■博士課程 2年 ■生化学(薬学)

老化モデル動物の行動解析および遺伝学的解析により加齢に伴う認知機能障害の発症メカニズムの解明、治療ターゲットの探索を目指しています。卓越プログラムを通して様々な分野の知識や技術を学び、革新的な新薬創出につなげていける応用力を身に付けたいです。



小野 亮平

■博士課程 1年 ■循環器内科学(医学)

直接Xa阻害薬は近年循環器領域で広く使用されている抗凝固薬ですが、モニタリング方法はこれまでありませんでした。抗Xa活性は直接Xa阻害薬の薬効を反映する指標の一つであり、内服患者における抗Xa活性を測定・解析することで個々人に至適と考えられる用量設定やオーダーメイド医療の確立を目指しています。

MEMBER'S PROFILES 学生紹介



佐々木 篤志

■博士課程 1年 ■呼吸器内科学(医学)

間質性肺疾患を始めとした難治性肺疾患は、有効な治療がなく病態も不明な点が多いです。Th2細胞について研究を重ねることで、免疫学的視点を幅広く持ち、難治性肺疾患の病態解明・有効な治療法の開発を目指します。



根本 祐宗

■博士課程 2年 ■免疫発生学(医学)

気道上皮の一種である神経内分泌細胞の、アレルギー性炎症における役割についての研究に取り組んでいます。まだ研究課題の山積する呼吸器領域に少しでも貢献できるよう頑張ってます。



菱谷 崇寿

■博士課程 1年 ■整形外科(医学)

アレルギー性気道炎症における誘導性気管支関連リンパ組織(iBALT)の病態への関与について、sc-RNAseqを含む遺伝子解析を中心とした研究を行っています。分子生物学的実験のみならずデータ解析にも精通した研究者を目指します。



修士課程



貝塚 祐太

■修士課程 2年 ■分子画像薬品学(薬学)

これまでα線治療という新たな治療法を実現するための基礎研究を行ってきました。卓越大学院では様々な背景を持つ研究者と議論ができるため、日々新たな気付きがあります。このような議論を通して、有効な分子標的を探索し、画期的なα線治療薬剤を開発したいと考えています。



小林 春花

■修士課程 1年 ■生物学(理学)

私は生命現象のエピジェネティックな制御とその異常による疾患発症に興味があり、研究を行なっています。現在は理学部で生命科学を専門とし、DNA 2本鎖切断修復におけるヒストンH3K36メチル化酵素の機能について解析しています。



込山 大智

■修士課程 1年 ■免疫微生物学(薬学)

トランスクリプトーム解析を用いて、二次リンパ組織に存在する高内皮細静脈(HEVs)の表現型を決定する分子機構を追求すべく、日々研究を進めています。厳しい社会情勢の中でこういった学びの機会をいただけることに感謝し、医療や社会に還元できる研究者を目指します。



鈴木 翔大

■修士課程 2年 ■生化学(薬学)

難病CADASILの発症に関わることが知られている、変異NOTCH3タンパク質蓄積のメカニズム解明を目指します。現在は培養細胞を用いてNOTCH3の糖鎖修飾の変異NOTCH3蓄積への関与を調べています。未来の日本医療に貢献するために幅広い視野を身に付けたいです。



辻 香織

■修士課程 1年 ■免疫発生学(医学)

免疫系において中心的な役割を担うCD4 T細胞では、ミトコンドリアが活性酸素種(ROS)を産生しており、その代謝活性とROS産生がどのようにナイーブCD4 T細胞の機能や分化に影響を及ぼすか研究しています。将来は、研究という側面から医療や社会へ貢献したいと思っています。



中谷 一真

■修士課程 1年 ■分子腫瘍生物学(医学)

がん遺伝子MYCNとそのアンチセンス遺伝子NCYMは、MYCN増幅神経芽腫において共増幅し、これらの遺伝子産物は神経芽腫悪性化に寄与します。私はCRISPR/dCas9システムを用いてMYCNとNCYMの転写を同時に抑制する新規治療法の開発を目指しています。



濱口 紀江

■修士課程 1年 ■構造生物学(理学)

低温電子顕微鏡による構造解析によって、分子スケールでの膜タンパク質のメカニズムを解明し、疾患の理解やリガンドの最適化を目指す研究に取り組んでいます。医学薬学を学ぶことで、基礎研究を最大限に応用研究に生かしていける展開力を身につけていきたいです。

